



30by30ロードマップの中間評価について（報告）



30by30目標の達成に向けて

- 国内の30by30目標達成に向けて、2022年に「30by30ロードマップ」を策定、本会議にて決定
- 当該ロードマップは、生物多様性国家戦略2023-2030に附属書として組み込み
- **2026年度に「30by30ロードマップ中間評価」を実施予定**（次ページ参照）
達成状況：陸域で21.0%、海域で13.3%（2026年8月3日報道発表）

30by30ロードマップのポイント（令和4年4月8日公表）

<主な取組の柱>

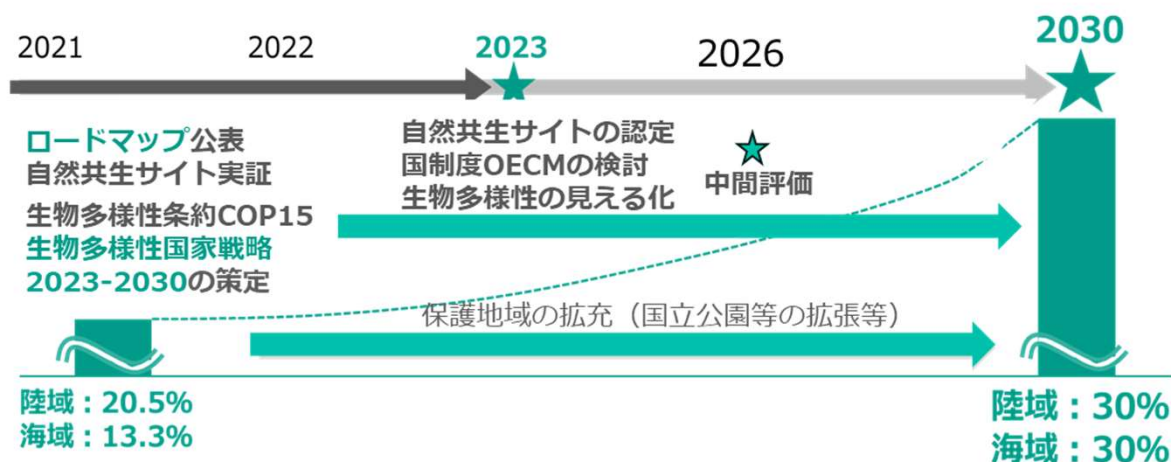
- 国立公園等の保護地域の拡張と管理の質の向上
- 自然共生サイトや国制度OECMの推進
- 生物多様性の見える化
- 30by30アライアンスによるステークホルダーの巻き込み
- 2026年度に中間評価の実施



OECMとなるような里地里山



保護地域の拡張（日高山脈）



(1) 中間評価の実施 (ロードマップ本文より抜粋)

ロードマップ策定後、「見える化」の仕組みの構築により、生物多様性保全上、効果的な地域を把握・検証するとともに、陸域の30by30目標達成の具体的な内容を示す。また、各施策の進捗状況について、可能な限り定量的な評価も含めフォローアップを行うことにより、30by30目標を確実に達成する。

(2) 中間評価作成にあたってのスケジュール

2026.8	第1回30by30ロードマップ未来対話
2026.11	第2回30by30ロードマップ未来対話
2026.12	パブリックコメント
2027.2~3	生物多様性国家戦略関係省庁連絡会議にて決定・公表

30by30ロードマップ未来対話について（概要）



- ☆ 中間評価について、開かれたプロセスかつ30by30に向けステークホルダーを巻き込むための方策として、「30by30ロードマップ未来対話」の開催を予定。

30by30ロードマップ未来対話概要

- 目的

現状の取組状況を踏まえて、30by30ロードマップに関連する事項について、多様な主体から幅広く意見聴取をする。これにより政府機関を含むステークホルダー間の協働の可能性を探り、Whole Society Approachを具体化する場とするとともに、30by30目標達成に向けた社会全体の機運向上につなげる。

- 時期

1回目：2026年 8月31日 15：00～18：00

2回目：2026年11月 4日 14：00～17：00

- 主催

環境省

- 参加者

有識者、自治体、民間企業、NGO、関係省庁等

- 開催方式

ハイブリッド形式、公開

社会全体で実効性のある30%の実現とその先の自然共生社会へ

- ① 自然共生サイトを通じた民間の取組の裾野の更なる拡大
- ② 30by30目標達成に向けた取組の加速化と保全の質の向上
- ③ 自然資本の保全と活用を両立する戦略的空間配置と地域ランドデザインの構築
- ④ 生物多様性の価値評価・価値活用とネイチャーファイナンスの推進
- ⑤ ネイチャーテック（自然関連技術）の実装を支えるデータ・技術基盤の整備